

六中だより



文責

早瀬泰志

第七十七回卒業証書授与式

三月八日(金)に、第六中学校第七十七回卒業式を行いました。今年度は、五年ぶりにご来賓の皆様をお迎えして式を行うことができました。八代市長中村博生様をはじめ、たくさんのご来賓、保護者の皆様に見守られながらの卒業式は格式が高く、大変ありがたい式となりました。

また、式の中でも、卒業生の態度や歌声の素晴らしい、在校生の前日の会場準備の取組の素晴らしいさや当日の態度や歌声をとっても今年度一番の素晴らしいと言っても過言ではないと思います。卒業式に向けて、新生徒会が毎日学級で校歌の練習してきた積み重ねなど、全校生徒の卒業式への思いが集結した一日となり、嬉しい限りでした。

今回の六中だよりは、送辞や答辞、式辞など一部抜粋して紹介します。



【送辞 在校生代表】

四月には新しく入学する新生一年生を六中に迎えます。私は最上級生という立場になります。先輩方に頼ったり、甘えたりすることが

できなくなります。しかし、これからは先輩方をお手本に私たちが先輩として、六中の顔として誇りをもってこれまでの伝統をしっかり受け継いでいきます。卒業を迎えた今、先輩方はどのようなお気持ちでしょうか。六中を離れる寂しさ、それぞれが踏み出す次のステージへの期待と不安に胸がいっぱいなのかもしれません。しかし、これからは進む道が一人一人違っても、この三年間を共に学び、共に笑い、困難も一緒に乗り越えて培った「きずなや思い出」は皆さんにとってかけがえのないものになっていると思います。八代市立第六中学校で過ごした日々を力に輝かしい未来を切り開いていってください。

【答辞 卒業生代表(前半)】

先生方、今まで私たちが時には厳しく、そして優しくご指導くださり、ありがとうございました。自分のことしか見えない、未熟だった私たちは、先生方から話してもらったことが理解できず、心配させてしまったこともありましたが、わからないことがあると、放課後も勉強を教えてくださいました。時には、何気ない話をしたりして、どんな時でも温かな心で包んでくれました。

私たちがここまで成長できたのは、まぎれもなく先生方から向けられた一つ一つのおかげです。深く感謝申し上げます。

在校生の皆さん、今年の生徒会スロガン「enjoy everyday」は達成できましたか。楽しく学校生活を送れるための生徒会のサポートはできていましたか。学校行事では私たち三年生と一緒に、それ以上に元気に盛り上がってくれてうれしかったです。部活動や委員会でも頼らない私たちでしたが、頼ってくれてうれしかったです。ありがとうございます。

支えてくれた家族、まだ、十五年間の人生経験しかない私たちはたくさん迷惑をかけたと思います。思春期も重なり、うまく言葉を伝えられない中、どんなわがままを言っても、いつも優しく見守ってくれました。毎日温かいご飯を作ってくれたり、仕事が忙しい中に送迎してくれたり、挑戦したいことには背中を押してくれたり、本当に大きな力になっていました。そして、いつでも、どんな時でも、私たちの一番の味方でいてくれました。今まで上手く伝えられなかったけれど、私たちを産み、ここまで育ててくれてありがとうございます。これからもよろしく願います。(次号に続きます。)

